

研究開発課題事後評価結果

事業名（年度）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 （平成28年度～令和2年度）
研究開発課題名	糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業
分担研究開発課題名	我が国の技術の強みと密接な医工連携体制を活かした標的分子探索・検証のための多角的糖鎖解析システムの構築
代表機関名	学校法人慶應義塾 慶應義塾大学
研究開発代表者名	坂元 亨宇

【評価結果】

大変優れている／計画した成果を多少上回る成果が得られた

【評価コメント】

プロジェクト全体の臨床解析拠点を慶應大医学部内に集中研として設置することにより、各種標的疾患の臨床試料を集積して詳細な分析と検討を可能にした病理チームと、質量分析をベースとした糖タンパク質精密構造解析技術(in-depth Glyco-RIDGE法)やレクチンアレイを組み合わせた分析技術を開発し、それらを駆使できる糖鎖解析チームの連携を実現した。それにより、O型糖鎖の解析法の進歩、膜タンパクの糖鎖解析、異分野との融合研究の推進、がんを含む多くの疾患で治療糖鎖分子の標的候補の同定、新レクチンアレイチップの製品化や自動糖鎖解析装置の販売等といった導出を達成するなど、当初の目標を十分に達成することができた。また、レクチンアレイ計測の高速化や微量サンプルからの解析技術等で計画を上回る成果が得られ、膵がんの特異的な抗体が取得できた点についても高く評価できる。

一方、非腫瘍性疾患への展開、得られた膨大な疾患糖鎖解析の成果を臨床へフィードバックし、診断と治療法を実用化するために特化した産学官連携システムの構築が次の課題である。本研究開発で得られた多くの成果は、診断マーカーや治療標的としての価値が高いと思われるので、医療の発展に繋がられるよう、今後の進展に期待したい。

以上